

# 多機能型ブイシステムによる海洋環境調査研究

(沿岸海域の海洋環境の調査)

(予算区分 県単独 研究期間 平成8～18年度)

担当：水産試験場漁業開発部

## 【研究の背景とねらい】

海上設置された多機能型海洋観測ブイによって収集された時系列データ(水温、流向、流速など)から、沿岸域の海洋環境を把握します。

現在、別図のとおり御前崎沖、遠州灘沖、波勝崎沖、稲取沖に4機の観測ブイが設置され、観測情報を発信しています。



## 【研究成果】

(平成17年度までの成果)

- ・ 沖合系水は伊豆半島西岸から流入し駿河湾内では反時計回りの流れが卓越していることが確認されました。
- ・ 水温上昇の伝播速度は湾口から湾奥まで数日かかることが推定されました。
- ・ 黒潮の接岸時に伊豆西岸で南東向きの強い流れがみられることもあり、湾内の還流タイプについて潮汐流などとの検討の必要性が示唆されました。
- ・ 遠州灘沖での内側反流に伴う水温上昇の特性を確認しました。

(平成18年度の成果)

- ・ 沖合系水の流入に伴う水温上昇が伊豆半島の西岸と東岸で異なることが確認され、その原因として黒潮の接岸変動の違いが推測されました。

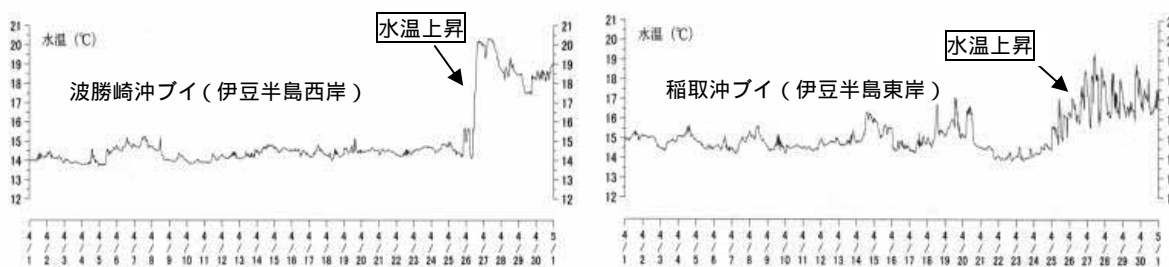
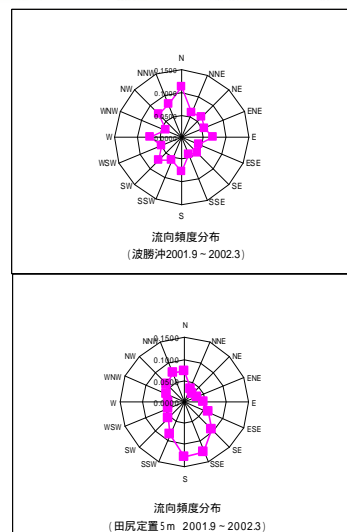


図 観測ブイによって収集された水温の時間変化(平成18年4月1～30日)

## 【成果の普及方法】

普及課題として調査を継続し、逐次その成果を情報発信します。

(作成 平成19年3月)